京都大学文学研究科　グローバル COE　「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

学会発表渡航支援報告書

（ふりがな） 氏　　名	なかはら　ゆみこ 中原　由望子	所属・職名 大阪府立大学
発 表 題 名 （英　　語）	”Regaining Identity by Old Widowers in Japan”	
著　者　名	Yumiko Nakahara	
会　議　名 （英　　語）	20th World Congress for Sexual Health	
開催地（国、市）	England, Glasgow	
参 加 期 間	2011 年　6 月　12 日　～　6 月　16 日	

2011 年度 WAS(World Association for Sexual Health)の国際学会（20th World Congress for Sexual Health）は、英国グラスゴー市の SECC（スコットランド展示・会議センター）において開催されました。6 月 12 日朝のワークショップ、その夜の GSC（グラスゴー・サイエンス・センター）におけるカクテル・レセプションから始まり 16 日まで、SECC 会議場において開催されました。

今年度の研究発表件数は 750 以上（ポスターセッション、ワークショップを含む）で、世界 74 カ国より 1044 名の参加があったと、閉会式にアナウンスされました。閉会式では盛会であったとことへの感謝が述べられ、研究発表の内容の多様さと質の高さ、参加国の多さ、国際交流の場として活用出来たことなどが評価されていました。

発表は 7 つの会場で、毎日 100 題を超える発表が行われました。タイムテーブルをよく見て、どの発表を聴くかを熟考しておかなければ、興味深い発表を聞き逃してしまいそうでした。今回の学会発表演題には、性に関する実践的活動における報告、例えば学校のカウンセラーや教育現場における性教育の指針呈示、クリニックにおける症例報告、行政的な支援活動に関する報告が多かったように思います。社会学を専攻しており実践の場を持たない私にとって、それらの報告は具体的でたいへん刺激的でした。

私は”Regaining Identity by Old Widowers in Japan”という題目でポスター発表を行いました。イタリア、米国、英国の方から、社会の高齢者に対する扱いや考え方、また、家族としての高齢者の立場が随分違っているように思う、とのコメントをもらいました。一方、韓国の方とバングラディッシュの方からは、似たような現象がある、というコメントがありました。会場でアジア圏から参加の方はそう多くないように思いましたが、アフリカ圏から参加の方はもっと少ないように感じました。

ポスター・ブースの周囲には企業の展示場が設けられており、そこには性の健康に関連する商品の解説書や見本が並べられていました。昨年、フランスで行われた他の学会場でも私を見かけたと、製薬会社の方が声を掛けてくれました。その会社ではヨーロッパ圏内どこにでも出張があるそうで、特に、学会会場には必ず出展するのだということでした。以前学会で出会った研究者や企業の方と再会できるのは、性に関する関心を共にしているからではないかと思います。国際学会に参加

して知っている方と再会するということも、私の学会発表の原動力になっています。